

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：34525

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K12196

研究課題名（和文）看護師の臨床成果に寄与するワーク・モチベーション支援モデルに関する研究

研究課題名（英文）Research on a model for supporting nurses' work motivation that contributes to clinical outcomes

研究代表者

西村 夏代（Natsuyo, Nishimura）

関西福祉大学・看護学部・教授

研究者番号：60553980

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、臨床での成果やケアの質の向上に寄与する看護師のワーク・モチベーションに関する規定要因を明らかにし、組織的支援モデルの開発を行うことである。まず看護師の成果やケアの質向上に寄与するワーク・モチベーションの規定要因に関して文献レビューを行い、それらの因果関係について、全国の病院施設の臨床で働く看護師（4000人）を対象とした縦断調査を実施した。1回目調査のデータ分析の結果、看護師の自己効力感がワーク・モチベーションに影響を与えていることが明らかとなった。現在、2回目調査で回収したデータ（約400名）を分析途中であり、交差遅延効果モデルと同時効果モデルを設定し前後性の検討を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、看護師の成果やケアの質向上に寄与するワーク・モチベーションの規定要因を、アンケート調査を通して定量的に明らかにしようとしたことである。個人的要因として一般的な自己効力感に着目しそれらの因果関係を明らかにするため、縦断調査を行い実証的に検証した。検証の結果、1回目の横断調査から看護師個人の自己効力感が、ワーク・モチベーションに影響を与えていることが明らかとなった。次いで縦断調査で得られたデータについて、交差遅延効果モデルと同時効果モデルを設定し、両者の因果関係について現在分析中である。明らかになれば、モチベーションを向上させるための介入を検討する資料が得られる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the determining factors of nurses' work motivation that contributes to improving clinical outcomes and the quality of care, and to build an organizational support model.

First, we conducted a literature review on the determining factors of nurses' work motivation that contributes to improving outcomes and the quality of care.

A longitudinal survey was conducted on nurses (4,000 people) working in hospitals nationwide to examine the causal relationship between nurses' work motivation and the determining factors. The results of the first survey revealed that self-efficacy affects work motivation. We are currently analyzing data collected in the second survey (approximately 400 people), and are examining causal relationships by setting up cross-lagged effect models and simultaneous effect models.

研究分野：基礎看護

キーワード：尺度開発 看護管理 構造方程式モデリング

## 1. 研究開始当初の背景

近年、医療の高度化及び国民の医療ニーズの多様化により、ますます加速化される変化に的確に対応し、良質な看護サービスを提供することが看護界全般に求められている。看護サービスの質向上に寄与する看護師の臨床での成果や業績の向上は、個々の施設の質を決定する要因であると言っても過言ではない。さらに、これらの成果・業績を生み出す看護師には良好な職務態度が求められ、職務態度に影響を与える個人的な要素の一つとして「ワーク・モチベーション」が近年注目されている。

欧米における看護師のワーク・モチベーション研究を概観すると、1970年代から、看護師の仕事継続性への関心からワーク・モチベーション研究が開化し、1980年代にはワーク・モチベーションと看護師の生産性(効率)との関連を調査した研究が散見される。一方わが国では、2000年頃より、離職やバーンアウトとの問題から看護師のワーク・モチベーションが注目されはじめた。しかし、これら国内外の研究はすべて、ワーク・モチベーションを単なる「やる気」「内的感情」といった内発的な側面として定義した研究であり、看護師の質を高める、あるいは業績を高めると言った積極的な志向、関心という視点でワーク・モチベーションを捉えた研究業績は皆無である。

申請者らは既に、本研究に関する理論的背景(マクレランドの動機理論)を基に、全国調査を行い、看護師の質を高める、あるいは業績を高めると言った視点でのワーク・モチベーション測定尺度(適合度指標:CFI=0.976、RMSEA=0.066)、看護師の職務態度測定尺度(適合度指標:CFI=0.939、RMSEA=0.071)を開発し、それらの因果関係について構造方程式モデリング(SEM)で検証した(CFI=0.938、RMSEA=0.048)。また、看護師の職務態度に対するワーク・モチベーションの寄与率は49.5%であり、看護師のワーク・モチベーションが高くなるほど、職務態度も向上する関係にあることを実証した。しかしながら、看護師の成果や業績に寄与するワーク・モチベーションの規定要因やそれらの関連性について、現在までに適切な統計手法を用いて検討されたものは無く、適切な統計手法を用いた規定要因の究明が、早急に求められるところである。さらには、ワーク・モチベーションの向上に寄与する規定要因が明らかになれば、臨床現場において、ワーク・モチベーションを高める支援モデルの構築が可能となり、看護師のキャリア発達や看護の質に還元できると考え本研究の着想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、看護師の臨床成果やケアの質向上に寄与するワーク・モチベーションの規定要因を明らかにし、組織的支援モデルの開発を行うことである。

## 3. 研究の方法

1)看護師の成果やケアの質向上に寄与するワーク・モチベーションの規定要因について、理論的根拠を背景とし、要因と考えられる概念や具体的事象を検討する。その方法として、個人的要因(例:自己効力感)や環境的要因(例:管理職の支援効果)側面が考えられるが、さらに、要因を検索するために文献検討を行い、根拠となる要因を精選する。本研究の理論的枠組みとなる理論を洗い出し、因果関係モデルを構築する。

2)看護師のワーク・モチベーションとその規定要因との関連性を検証するため、規定要因を測定するための適切な尺度の選定、または必要があれば独自に尺度開発を行う。

3)1回目の縦断研究の実施:全国の病院施設の臨床で働く看護師を対象に、質問紙を配布し(4000人)調査を行い、それぞれの尺度の信頼性と妥当性を検証し、測定尺度を完成させる。

4)2回目の縦断研究の実施:縦断研究の同意が得られた看護師を対象に、調査を実施し、得られたデータを下に、モチベーションとその規定要因の前後性を明らかにするため、交差遅延効果モデルと同時効果モデルを設定し、構造方程式モデリングで前後性の検討を行う。

5)組織的な看護師のワーク・モチベーション向上のための支援モデルの開発を行う。

看護師の成果やケアの質向上に寄与するワーク・モチベーションの規定要因を明らかにした後、スタッフ看護師や管理者(看護師長など)を対象とした、ワーク・モチベーション向上啓発の資料を作成し、実践の場における支援モデルを構築する。

## 4. 研究成果

看護師のワーク・モチベーションの規定要因について、理論的根拠から要因と考えられる概念や具体的事象を絞り、その概念について検証すべく測定尺度の質問紙を作成した。筆者の施設で倫理委員会の審査を受け、実施の許可を得た。

縦断調査の第1回目の実施として、全国の病院施設の臨床で働く看護師(4000人)を対象

に、質問紙を配布し、調査を行い、データを収集した。データに欠損の無い1005名のデータについて、使用した尺度の信頼性と妥当性を検証し、因果関係モデルを構築し構造方程式モデリングで関係性を検証した結果、自己効力感とワーク・モチベーションに関連性を認めた。今後成果をまとめ、学会発表する予定である。

縦断調査の第2回目に回収したデータ(約400名)をもとに、ワーク・モチベーションとその規定要因の因果の前後性を明らかにするため、交差遅延効果モデルと同時効果モデルを設定し、構造方程式モデリングで前後性の検討を行っている。現在分析中であり、今後成果についてまとめ学会で発表していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 西村夏代、出井涼介、山本智恵子、山口三重子、中嶋和夫	4. 巻 34
2. 論文標題 看護師のワーク・モチベーション測定尺度の開発	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会医学研究	6. 最初と最後の頁 27 - 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西村夏代、出井涼介、山本智恵子、山口三重子、中嶋和夫	4. 巻 35
2. 論文標題 看護師におけるワーク・モチベーションと職務態度の関連性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会医学研究	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Natsuyo Nishimura
2. 発表標題 Relationship between work motivation and family support attitudes among ICU nurses in Japan
3. 学会等名 55th World Advanced Nursing and Nursing Practice Congress
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山口 三重子  (Yamaguchi Mieko)  (90279018)	姫路大学・看護学部・教授          (34534)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------